

十石堀について調べよう

1 研究の動機

十石堀が世界かんがい施設遺産に登録され、なぜ登録されたのか知りたいと思い調べた。



2 研究の内容

(1) 2019年9月4日 世界かんがい施設遺産に登録されたことについて

①世界かんがい施設遺産とは

かんがい農業を発展させ、技術的に優れた水路やせきなどを保存することを目的に国際かんがい排水委員会（ICID）が創設した。建設から100年以上の施設が対象。

②日本の世界かんがい遺産

これまでに登録されたのは、39か所。山間部に多い。山だと水が引きにくいので、かんがい施設が必要となる。地方では北海道地方、関東地方、中国地方に少なく、中部地方に多い。関東地方は、低地なので川幅が広く、水が得やすい。昔の人たちは、苦労して水を手に入れていたことがわかる。

③登録されたときの様子

歴史的価値のある農業用水利施設を登録する「世界かんがい施設遺産」に北茨城市中郷地区を流れる「十石堀」が選ばれた。同遺産への登録は、茨城県内初。インドネシア・バリで開かれた国際かんがい排水委員会（ICDC）の理事会で9月4日に発表され、現地からの報告を受けた。地域住民ら約150人が北茨城市役所でくす玉を割るなどして祝った。二つの沢を導水路「掘割」でつなぎ水源開発を行った技術や農民自ら掘削したといった要素が評価につながった。

(2) 十石堀の歴史

時代	年	
		・ 沼田惣左衛門（主計）が山に行き、大北川の支流・加露川から水が引けることを突き止めた。工事の許可が松岡藩からおりた。
	1668	・ 8月工事が始まった。一番大変だったのが、測量の仕事であった。
	1669	・ 3月に完成 ・ 十石堀に水を流した水しみのための工事 ・ 沼田主計は、税を納めなくてもよい十石の土地をもらった。
	1991	・ 高萩土地改良事務所が十石堀地区でため池整備事業を行う。

1996	・高萩土地改良事務所が、十石堀地区でふるさと土地保全モデル事業を行う。十石堀親水公園ができる。
2017	・7月に登録申請を送ることを決定。
2018	・1月に申請書を提出したが、国内審査は通らなかった。
2019	・2月に再申請し、5月に国内審査を通過。 ・9月4日に世界かんがい施設遺産として登録

(3) 十石堀の基本データ

①いつ作られたか・・・340年前	④工事をした人数・・・約4800人
②工事期間・・・7か月	⑤かかったお金・・・26両
③水路の長さ・・・約15Km	⑥水を使う水田・・・47ha

(4) 十石堀散策ルート

- ①景観保全工事・・・昔の姿を残した工事
- ②最も深い自然の掘割・・・木の根の下を流れている
- ③古い堀の跡・・・仕事のための道や古い堀の跡を見ることができる
- ④分岐・・・水路は、日棚と松井に分かれる
- ⑤深い谷とジクザク跡・・・等高線に沿ってくねくね曲がった水戸となる
- ⑥水門・・・十石堀のはじまり



(5) 十石堀維持管理協議会の会長さんにインタビュー

1	なぜ、十石堀を登録したいと思ったのですか。	茨城県北農林事務所、北茨城農林水産課より、認定登録の制度があって、すべての要件が満たされているので、挑戦してみてもどうかとの提案があった。
2	十石堀が登録されたのはなぜですか。	350年前、農民が自分たちで考え、創意工夫して二つの山の沢をつなげたり、山の斜面を削り、自然を利用して約15キロの用水路を農民の力で完成させ、今も農民が自らの力で維持管理し、現在も利用されている。
3	十石堀は、こわれたことはないのですか。	大雨などの自然災害で何度も崩れたり、埋まったりしています。その都度に、農民の力で修復しました。
4	十石堀の水が通る道は何度か変わっているのですか。	瀧の沢水門付近、日棚分水工の下滝、昔の堀らしい跡がうかがえます。資料はありませんが、水の通る道は、変えたと思われる。
5	十石堀維持管理協議会はどんなことをしているのですか。	<ul style="list-style-type: none">・検分加露川～松井分水間の概況を確認し、何か不備があるときは対応する。・江払い、水路の泥砂・落ち葉・枝などを取り除き用水が正常に流れるようにする。・刈払い、用水の草刈り
6	十石堀維持管理協議会は何人くらいいますか。	松井地区、日棚地区、東野地区、合計36人で構成されています。会長1人、副会長2人、幹事4人、委員26人、顧問3人。

3 提案 世界かんがい施設遺産を活かした町づくり

十石堀が世界かんがい施設遺産に登録されて、観光客が増えることが予想されます。そこで、重要文化財の石岡第一発電所とともに観光スポットだった大北溪谷を合わせて、大きな公園「石岡」親水公園」を作ることができると思います。また、ボランティアガイドや歩道の整備も必要になってきます。

4 研究のまとめ

世界かんがい遺産に登録されたときに、初めて十石堀のすごさに気づきました。見学に行ったときには古い水路の中をたくさんの水が流れていたことが心に残りました。昔の人々が豊作を願って、たくさんの苦労や工夫をして行った工事なので、今まで残るような立派な水路を作れたのだと思います。これからずっと残していけるように、自分ができるボランティアガイドなどに取り組んでいきたいです。さらに、昔の人がどのような道具を使い、どのような工事をしたのかを具体的に知りたいと思いました。